

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
161	2006/3/10	50967	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
162	2006/3/10	50968	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフ ハートイ ンフュー ジョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
163	2006/3/10	50969	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
164	2006/3/10	50970	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
165	2006/3/10	50971	財団法人 阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
166	2006/3/10	50972	財団法人 阪大微生物 研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
167	2006/3/10	50973	財団法人 阪大微生物 研究会	発疹チフスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	製造中止品 目	製造工程	無	無	無			
168	2006/3/13	50974	日本赤十 字社	乾燥ペブシン処理人免疫グロブリン	ペブシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
169	2006/3/13	50975	日立化成 工業株式 会社		アルケー 性疾患患 者から抽 出、精製 した抗アル ケー性物 質	ヒト尿	日本	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
												マイコプラズマ 肺炎	IDWR JAPAN (感 染症週報) 2005年 第39週	マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して、常にその平均値を超える状態が続いており、第39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。
												日本脳炎	臨床血液 2005; 46: 910 第9回日本ワクチン 学会学術集会 要 旨集87	2004年4月28日から5月27日初診で日本脳炎ウイルス関与が強く示唆される血球貪食症候群6例が広島県のある地域で発生した。日本脳炎ウイルスに関連したウイルス関連血球貪食症候群の報告は初めてである。
												マイコプラズマ 肺炎	IDWR JAPAN (感 染症週報) 2005年 第40週	マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが2005年第1週以降では最高値となり、また、過去6年間の同週との比較でも最も多かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第40週	米ロスアンゼルスにおいて蚊に刺された30歳代男性が2005年9月5日に帰国した。帰国前夜より倦怠感があり、9月5日から発疹、頭痛、発熱(38.3℃)、腰痛の症状を呈し近医を受診したが症状が改善せず、川崎市立川崎病院を受診した。ウエストナイルウイルスIgM抗体検査や中和試験、その他の検査の結果ウエストナイル熱と診断された。
												ウイルス感染	Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434	2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒトヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
												レプトスピラ症	第88回日本細菌学会関東支部総会一般演題4-2	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、取り扱っていた輸入アメリカモモンガが原因であった。
												トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第51週、52週合併号	トルコ保健省はH5型トリインフルエンザウイルス感染患者2名を確認した。1例目は東部の14歳の少年、2例目はこの少年の姉(15歳)で2名とも死亡した。患者らは鶏との濃密な接触があった。アジア以外では初のトリインフルエンザウイルスによる患者報告である。
												寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。
												トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第2週	トルコの国立インフルエンザセンターは新たにトリインフルエンザ患者を確認し、2006年1月16日時点で患者数は20例(内死亡4例)となった。ウイルス解析により、ウイルスの遺伝子配列に3箇所の変異を確認した。この変異のうちの少なくとも2箇所はウイルスがヒトへの感染しやすいように働く可能性があるという指摘している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第3週	2003年に始まった一連のH5N1インフルエンザの国別確定症例数と死亡数。感染地域が徐々に拡大し、ヒトへの感染報告数も徐々に増加している。
												インフルエンザ	IDWR Japan(感染症週報) 2006年第4週	2006年第4週のインフルエンザの定点あたり報告数は32.4(報告数151,878例)となり増加が続いている。分離報告の殆どはA型(99.7%)である。流行は西日本から東日本に広がりがつある。今後患者数が増加する可能性があり、注意を要する。
170	2006/3/15	50976	東菱薬品工業株式会社	ヘモコアグラゼ	ヘモコアグラゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
171	2006/3/15	50977	東菱薬品工業株式会社	幼牛血液抽出物	ゾルコセリル	幼牛血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853	げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。
												ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
												E型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 3042-3048	韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEV IgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。
172	2006/3/17	50978	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
173	2006/3/17	50979	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
174	2006/3/17	50980	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
175	2006/3/17	50981	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
176	2006/3/17	50982	日本臓器製薬株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無			
177	2006/3/17	50983	株式会社フジモト・ダイアグノスティクス	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	有	無	無	リケッチア症	第54回日本感染症学会東日本地方会総会2005年10月27日	急性Q熱54例に関して、患者背景、推定感染経路、臨床像を解析した。病型は肺炎28例、気管支炎6例、上気道炎12例、肝炎4例、不明熱3例、リンパ節炎1例で、死亡例はなかった。発症前に動物と接触した例は76%で、イヌ、ネコが多数を占めていたが、ウシ、ウサギ、シカ、ニワトリ、インコ、野鳥との接触例がみられた。
178	2006/3/17	50984	味の素株式会社	バルナバリンナトリウム注射液	バルナバリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
179	2006/3/20	50985	社団法人北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウマ脱繊維血	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
180	2006/3/20	50986	社団法人北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
181	2006/3/20	50987	社団法人北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
182	2006/3/20	50988	社団法人北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県某養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												トリインフルエンザ	CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu	2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。
183	2006/3/20	50989	社団法人 北里研究所	インフルエンザHAワクチン①、② インフルエンザワクチン③	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本、 ③不明	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成 18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												トリインフルエンザ	CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu	2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
184	2006/3/20	50990	社団法人北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
185	2006/3/20	50991	社団法人北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
186	2006/3/20	50992	社団法人北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③	乳糖	ウシ乳	①ニュージーランド・ ②米国③ ニュージーランド	添加物	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
187	2006/3/20	50993	社団法人北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	①③ニュージーランド③ オーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
188	2006/3/20	50994	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												クロウン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクロウン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クロウン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クロウン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クロウン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
189	2006/3/20	50995	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水 解物	ウシ乳	①オーストラリア、ニュージーランド②③オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												クロウン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクロウン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クロウン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クロウン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クロウン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
190	2006/3/20	50996	社団法人 北里研究 所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	中国、ポー ランド	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov /ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日か ら19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌 されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイ ルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病 予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。 今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表は なく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬 病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの 経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有 するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告し た。
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在 するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより 調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌 患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病 は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳 の生産と消費が増加しており、クローン病も増加している ことから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要であ る。
191	2006/3/20	50997	社団法人 北里研究 所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	スキムミ ルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov /ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日か ら19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌 されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイ ルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病 予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。 今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表は なく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬 病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの 経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有 するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告し た。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
192	2006/3/20	50998	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ビーフェ キストラク ト	ウシ筋肉	オーストラ リア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
193	2006/3/20	50999	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージ ーランド、オ ーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
194	2006/3/20	51000	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓 抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
195	2006/3/20	51001	財団法人化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322	1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。
												トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
196	2006/3/20	51002	財団法人化学及血清療法研究所	ウイルス治療血清	血清	ウサギ血液		製造工程	無	無	無			
197	2006/3/20	51003	財団法人化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
198	2006/3/20	51004	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミ ルク	ウシ乳	アメリカ	製造工程	無	無	無			
199	2006/3/20	51005	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプ ト	ウシ乳	中国、 ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
200	2006/3/20	51006	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
201	2006/3/20	51007	財団法人 化学及血 清療法研 究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
202	2006/3/20	51008	財団法人 化学及血 清療法研 究所	コレラワクチン	ハートイ ンフュー ジョンア ガー	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
203	2006/3/20	51009	財団法人 化学及血 清療法研 究所	コレラワクチン	ハートイ ンフュー ジョンブ イ オン	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
204	2006/3/20	51010	財団法人 化学及血 清療法研 究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ 抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			